

分散投資型年金

Global WIN

グローバル・ウィン

新変額個人年金保険(無配当) 特別勘定グループ(GW)

月次運用実績レポート

2010年4月

| 特別勘定の名称 | 主な運用対象の投資信託 | 投資信託の運用会社 |
|----------------|---|----------------------------------|
| 日本株インデックス型(GW) | インデックスファンド225VA (適格機関投資家向け) | 日興アセットマネジメント株式会社 |
| 日本株アクティブ型(GW) | フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3 (適格機関投資家専用) | フィデリティ投信株式会社 |
| 海外株式型(GW) | ステート・ストリート外国株式 インデックス・ファンドVA1(適格機関投資家専用) | ステート・ストリート・グローバル ・アドバイザーズ株式会社 |
| 新興成長国株式型(GW) | JPM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付) | JPモルガン・アセット・マネジメント 株式会社 |
| 海外債券型(GW) | ピムコ・海外債券ファンド (適格機関投資家専用) | ピムコジャパン リミテッド |
| 日本債券型(GW) | MHAM物価連動国債ファンドVA (適格機関投資家専用) | みずほ投信投資顧問株式会社 |
| 海外リート型(GW) | ノムラ海外REIT インデックス・ ファンドVA(適格機関投資家専用) | 野村アセットマネジメント株式会社 |
| マネープール型(GW) | フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用) | フィデリティ投信株式会社 |

<引受保険会社>

<募集代理店>
株式会社 鳥取銀行

TOTTORI BANK  鳥取銀行

アクサ生命保険株式会社 

redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

TEL 0120-933-399

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

特別勘定名称

日本株インデックス型(GW)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 設定来 |
|----------------|--------|-------|--------|--------|---------|
| 日本株インデックス型(GW) | ▲0.37% | 8.56% | 10.11% | 24.45% | ▲32.70% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 2.8% |
| 投資信託 | 97.2% |
| 合計 | 100.0% |

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(「100」として指数化したもの)です。

【参考】日本株インデックス型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

インデックスファンド225VA(適格機関投資家向け)

(運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

| | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 3年 | 設定来 |
|-----------------|-------|--------|--------|---------|-------|
| インデックス225VA | 9.13% | 10.92% | 26.57% | ▲12.92% | 3.09% |
| 日経平均株価(225種・東証) | 8.43% | 10.19% | 25.25% | ▲14.03% | 2.19% |
| 差異 | 0.71% | 0.73% | 1.32% | 1.10% | 0.91% |

<純資産総額>

純資産総額 188.75億円

※収益率は、1年以上の場合、年率ベースで、1年未満(3ヵ月間、6ヵ月間)は、年率換算していません。
 ※ファンド(分配金再投資)の収益率は、当ファンド決算時に分配金があった場合の分配金を再購入(再投資)し、算出しています。
 ※収益率・リスクともに月次の収益率より算出しています。設定日が月中の場合、設定日が属する月は含んでいません。

<株式組入上位10業種>

| 業種名 | ファンドのウエイト |
|---------|-----------|
| 1 電気機器 | 23.78% |
| 2 小売 | 7.98% |
| 3 情報・通信 | 7.51% |
| 4 化学 | 7.05% |
| 5 輸送用機器 | 6.51% |
| 6 医薬品 | 6.31% |
| 7 機械 | 5.11% |
| 8 食料品 | 3.86% |
| 9 精密機器 | 3.80% |
| 10 卸売 | 2.77% |

※ファンドのウエイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

<株式組入上位10銘柄>

| 銘柄名 | ファンドのウエイト |
|---------------|-----------|
| 1 ファーストリテイリング | 5.21% |
| 2 ファナック | 4.05% |
| 3 京セラ | 3.44% |
| 4 キヤノン | 2.37% |
| 5 ホンダ | 2.33% |
| 6 ソフトバンク | 2.30% |
| 7 東京エレクトロン | 2.25% |
| 8 TDK | 2.20% |
| 9 信越化学工業 | 1.98% |
| 10 アドバンテスト | 1.78% |

(組入銘柄数225銘柄)
 ※ファンドのウエイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

<資産構成>

| | |
|--------|---------|
| 株式 | 99.10% |
| 一部上場 | 99.10% |
| 二部上場 | 0.00% |
| 地方単独 | 0.00% |
| ジャスダック | 0.00% |
| その他 | 0.00% |
| 株式先物 | 0.91% |
| 株式実質 | 100.00% |
| 現金その他 | 0.90% |

※当ファンドの実質の組入比率です。

<運用コメント>

月初11,089円94銭の日経平均株価は、日米での景況感改善や円安進行を背景に上昇基調で始まりまし。生命保険大手の新規上場が順調な滑り出しを見せたことも、相場を後押ししました。月半ばにかけては、相場の過熱警戒感などから、日経平均株価は利益確定売りに押される局面もありましたが、日米での企業業績の改善期待を背景に、底堅く推移しました。その後、米当局による米証券大手の訴追をめぐる問題などを受け、日経平均株価は一時、大きく値を切り下げました。下旬に入り、米国景気回復期待に加え、国内主力企業の2010年3月期決算予想の上方修正が相次いだことなどから日経平均株価は持ち直したものの、月末にかけては大手格付け会社による南欧諸国の信用格付けの引き下げなどが重しとなり、11,057円40銭で月末を迎えました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本株アクティブ型(GW)

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

運用方針

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 設定来 |
|-----------------------|-------|--------|--------|--------|---------|
| 日本株 アクティブ型 (GW) | 1.11% | 11.32% | 11.21% | 25.47% | ▲32.98% |

特別勘定資産内訳

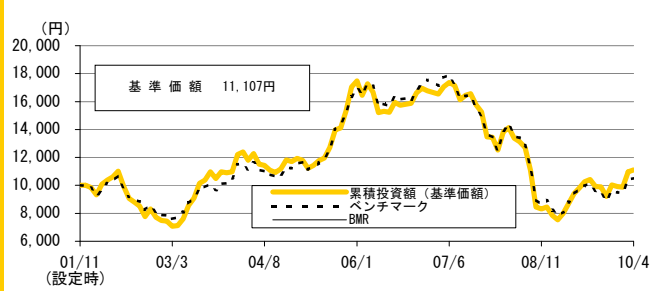
| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 3.0% |
| 投資信託 | 97.0% |
| 合計 | 100.0% |

【参考】日本株アクティブ型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用) (運用会社:フィデリティ投信株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行ないます。

設定来の運用実績 (2010年4月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、申込手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。
※基準価額は信託報酬控除後のものです。

<運用コメント>

4月の東京株式市場は、好悪両材料の綱引きとなり、もみ合いが続きました。前月来の堅調な地合いが続く中、景気の改善傾向を示す米マクロ経済指標の発表が相次いだことから一段と円安ドル高が進展、月初の日本株は連日年初来高値を更新しました。ギリシャ支援を巡る根強い懸念から円安進行が一服すると、折からの高値警戒感も相俟って株価は上値の重い展開となり、月半ば過ぎにはSEC(米証券取引委員会)による米大手金融機関の提訴を受けて金融規制強化の流れが加速するとの懸念から、下落を余儀なくされました。その後は、相次ぐ好決算や住宅関連指標の改善を好感した米株高、国内企業における収益回復期待などが相場の下支えとなりましたが、一方では米格付会社が南欧諸国の信用格付けを引き下げるなど、引き続き欧州の財政不安問題が重石となり、日本株は月初の水準付近でもみ合って月末を迎えました。月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が+0.84%、日経平均株価は▲0.29%となりました。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

<資産別組入状況>

| | |
|---------------|-------|
| 株式 | 97.0% |
| 新株予約権証券(ワラント) | - |
| 投資信託・投資証券 | 0.8% |
| 現金・その他※ | 2.2% |

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」1.4%を含みます。

<市場別組入状況>

| | |
|--------|-------|
| 東証1部 | 86.9% |
| 東証2部 | 0.0% |
| ジャスダック | 1.1% |
| その他市場 | 9.7% |

<組入上位5業種>

| | |
|--------|-------|
| 電気機器 | 25.0% |
| 銀行業 | 8.4% |
| 情報・通信業 | 7.2% |
| 機械 | 7.1% |
| 化学 | 5.6% |

(対純資産総額比率)

| 商品概要 (2010年5月(月次改訂)) | |
|----------------------|--------------------------|
| 形態 | 追加型投信/国内/株式 |
| 投資対象 | わが国の株式等 |
| 設定日 | 2001年11月29日 |
| 信託期間 | 原則無期限 |
| 決算日 | 原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日) |

| 累積リターン (2010年4月30日現在) | | | | | |
|-----------------------|-------|--------|--------|--------|--------|
| | 直近1ヶ月 | 3ヶ月 | 6ヶ月 | 1年 | 設定来 |
| ファンド | 1.24% | 11.99% | 12.18% | 27.77% | 11.07% |
| ベンチマーク | 0.84% | 10.51% | 11.27% | 19.63% | 5.10% |

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。
※ベンチマーク：TOPIX (配当金込)

| 過去5期分の収益分配金 (1万口当たり/税込み) | |
|--------------------------|----|
| 第4期(2005.11.30) | 0円 |
| 第5期(2006.11.30) | 0円 |
| 第6期(2007.11.30) | 0円 |
| 第7期(2008.12.01) | 0円 |
| 第8期(2009.11.30) | 0円 |

純資産総額 816.5 億円 (2010年4月30日現在)

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2010年3月31日現在)

| 順位 | 銘柄 | 業種 | 比率 |
|----|-------------------|--------|------|
| 1 | 三井住友フィナンシャルグループ | 銀行業 | 3.3% |
| 2 | パナソニック電工 | 電気機器 | 3.1% |
| 3 | ダイキン工業 | 機械 | 3.0% |
| 4 | オリックス | その他金融業 | 2.9% |
| 5 | 三菱電機 | 電気機器 | 2.9% |
| 6 | 三菱UFJフィナンシャル・グループ | 銀行業 | 2.7% |
| 7 | 日本電産 | 電気機器 | 2.7% |
| 8 | ミスグループ本社 | 卸売業 | 2.7% |
| 9 | TDK | 電気機器 | 1.7% |
| 10 | 日立金属 | 鉄鋼 | 1.7% |

(組入銘柄数:233) 上位10銘柄合計26.8%(対純資産総額比率)

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」は、組入上位10銘柄の対象から除いています。

(2010年3月31日現在)

*各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

*ファンドは短期資金の運用の一環として、委託会社が設定した「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」に投資する場合があります。これはあくまでも短期資金の運用であるため、組入上位10銘柄、市場別組入状況には含めず、資産としては「現金・その他」に分類いたしております。なお、未払金等の発生により、「現金・その他」の数値が「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」の数値を下回ることがあります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外株式型(GW)

運用方針

日本を除く主要先進国企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、MSCI KOKUSAIインデックスに連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 設定来 |
|---------------|-------|--------|-------|--------|---------|
| 海外株式型 (GW) | 2.04% | 12.79% | 9.93% | 31.94% | ▲27.52% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 3.2% |
| 投資信託 | 96.8% |
| 合計 | 100.0% |

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

【参考】 海外株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ステート・ストリート外国株式インデックス・ファンドVA1 (適格機関投資家専用)

(運用会社:ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社)

<基準価額の騰落率>

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 設定来 |
|--------------------------------------|---------|---------|---------|---------|----------|
| ステート・ストリート 外国株式インデックス・ ファンドVA1 | 2.20% | 13.57% | 10.92% | 34.68% | 39.18% |
| MSCIコクサイ インデックス (円換算) | 2.28% | 13.88% | 11.44% | 36.02% | 50.99% |
| 差異 | ▲ 0.07% | ▲ 0.31% | ▲ 0.52% | ▲ 1.34% | ▲ 11.81% |

<総資産総額>

純資産総額 7,574百万円

<組入銘柄数>

銘柄数 (マザーファンド) 1,309

<外国株式組入上位10銘柄>

| 順位 | 銘柄 | 国 | 業種 | 比率 |
|----|----------------------|------|------------------------|------|
| 1 | EXXON MOBIL CORP | アメリカ | エネルギー | 1.6% |
| 2 | MICROSOFT CORP | アメリカ | ソフトウェア・サービス | 1.2% |
| 3 | APPLE INC | アメリカ | テクノロジー・ハードウェアおよび機器 | 1.2% |
| 4 | GENERAL ELECTRIC CO | アメリカ | 資本財 | 1.0% |
| 5 | BANK OF AMERICA CORP | アメリカ | 各種金融 | 0.9% |
| 6 | PROCTER & GAMBLE CO | アメリカ | 家庭用品・パーソナル用品 | 0.9% |
| 7 | HSBC HOLDINGS PLC | イギリス | 銀行 | 0.9% |
| 8 | JOHNSON&JOHNSON | アメリカ | 医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス | 0.9% |
| 9 | JPMORGAN CHASE & CO | アメリカ | 各種金融 | 0.8% |
| 10 | IBM CORP | アメリカ | テクノロジー・ハードウェアおよび機器 | 0.8% |

※マザーファンド・ベース
※比率は対純資産で計算しています。

<信託財産構成比>

| 項目 | 国名 | 比率 |
|-----------------|-----------|-------|
| 外国株式 | [全体] | 98.4% |
| | <北米> | 60.6% |
| | アメリカ | 55.1% |
| | カナダ | 5.6% |
| | <アジア・太平洋> | 6.2% |
| | オーストラリア | 4.3% |
| | 香港 | 1.2% |
| | シンガポール | 0.8% |
| | ニュージーランド | 0.1% |
| | <ヨーロッパ> | 31.5% |
| | イギリス | 10.4% |
| | フランス | 5.0% |
| | ドイツ | 3.8% |
| | スイス | 3.7% |
| | オランダ | 1.3% |
| | イタリア | 1.5% |
| | スペイン | 1.8% |
| スウェーデン | 1.4% | |
| フィンランド | 0.6% | |
| ベルギー | 0.5% | |
| アイルランド | 0.1% | |
| デンマーク | 0.5% | |
| ノルウェー | 0.4% | |
| ギリシャ | 0.2% | |
| ポルトガル | 0.1% | |
| オーストリア | 0.2% | |
| その他(現金及び株価指数先物) | | 1.6% |

※マザーファンド・ベース
※比率は対純資産で計算しています。

<4月の市場概況>

4月の米国株式市場は、ISM製造業指数や雇用統計などの経済指標が改善したことから、月初は堅調なスタートとなりました。その後も業績期待などから株価は底堅い展開となりましたが、米証券取引委員会が米金融大手を提訴したことや、欧州の財政懸念が強まったことなどが嫌気され、月末にかけては一進一退の展開となりました。ダウ平均は11,008.61(前月比+1.40%)、ナスダック総合は2,461.19(前月比+2.64%)、S&P500指数は1,186.69(前月比+1.48%)で終了しました。

欧州株式市場は、経済指標が改善されたことや、個別企業の好決算などが好感され、株価は中旬まで堅調に推移しました。しかしその後、米大手格付け会社によるギリシャ国債の格下げをきっかけとして、ユーロ圏諸国の財政懸念が急速に強まり、株価は月末にかけて下落しました。英FT指数は5,553.29(前月比-2.22%)、仏CAC指数は3,816.99(前月比-3.95%)、独DAX指数は6,135.70(前月比-0.29%)で終了しました。

アジア市場は、中旬にかけては堅調な値動きとなったものの、ギリシャの財政懸念が強まったことや、中国当局による不動産市場引き締め策が嫌気されたことなどから、株価は月末にかけて下落しました。豪ASX200指数は4,807.40(前月比-1.40%)、香港ハンセン指数は21,108.59(前月比-0.62%)で終了しました。

外国為替市場は、日本のインフレ指標が引き続き低下となったことに加え、域内の一部の国に対する財政懸念からユーロが売られる中で、米ドルが対主要通貨で強含みとなりました。円は対米ドルで月間1.11%下落の94.07円となりました。

MSCIコクサイ指数パフォーマンスは前月比+2.28%となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

新興成長国株式型(GW)

運用方針

新興成長国の企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(06/09)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

| | 1か月 | 3か月 | 6か月 | 1年 | 設定来 |
|--------------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 新興成長国株式型(GW) | 0.83% | 13.82% | 14.50% | 62.90% | 26.41% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 5.3% |
| 投資信託 | 94.7% |
| 合計 | 100.0% |

【参考】 新興成長国株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

JPM・BRICS5・ファンド(適格機関投資家転売制限付)

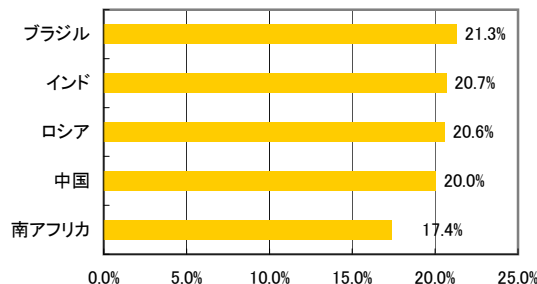
(運用会社: JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

| | 1ヶ月 | 3か月 | 6か月 | 1年 | 設定来 |
|-----------------|------|-------|-------|-------|-------|
| JPM・BRICS5・ファンド | 0.9% | 14.4% | 15.3% | 67.0% | 55.3% |

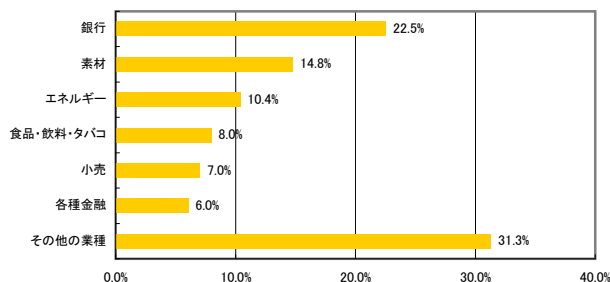
※騰落率については、基準価額に税引き前分配金を再投資して計算しております。
 ※騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。
 ※ファンド設定日は2006年5月26日です。

<国別構成比率>



※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入れ有価証券を100%として計算しております。

<業種別構成比率>



※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入れ有価証券を100%として計算しております。

<株式組入上位10銘柄>(銘柄数 57銘柄)

| 順位 | 銘柄 | 国 | 業種 | 比率 |
|----|----------------|-----|-------------|-------|
| 1 | ズベルバンク | ロシア | 銀行 | 8.25% |
| 2 | ノリルスクニッケル | ロシア | 素材 | 5.07% |
| 3 | HDFC | インド | 銀行 | 3.96% |
| 4 | 招商銀行 | 中国 | 銀行 | 3.42% |
| 5 | 利豊 | 中国 | 小売 | 2.91% |
| 6 | インフォシス・テクノロジーズ | インド | ソフトウェア・サービス | 2.78% |
| 7 | マグニト | ロシア | 食品・生活必需品小売り | 2.76% |
| 8 | 華潤創業 | 中国 | 小売 | 2.75% |
| 9 | ロスネフチ | ロシア | エネルギー | 2.63% |
| 10 | 中国建設銀行 | 中国 | 銀行 | 2.63% |

(2010年3月31日現在)

※マザーファンド・ベース ※比率は対純資産で計算しています。

<運用コメント>

市場概況

当月のBRICS5カ国を含む新興国株式市場はMSCIエマージング・マーケット・インデックスで0.1%下落しました。当月は、比較的可変の大きい相場展開となりました。月の前半は、世界の景気回復に対する期待の高まりを背景に好調に推移しました。しかし後半には、欧州諸国の財政悪化が世界経済の回復に悪影響を及ぼすとの懸念が再燃し、投資家の間でリスク資産を回避する動きが見られたことから、株式市場は下落しました。

BRICS5カ国の国別では、南アフリカ、インドは上昇、ブラジル、ロシア、中国は下落となりました。

運用状況

- ・当ファンドの月末基準価額は13,837円、前月比0.9%の上昇となりました。
- ・国別の投資比率はブラジル、インド、ロシアが上位となり、20%を上回る比率となりました。一方で中国、南アフリカは20%以下の比率となりました。
- ・当月は株価要因はマイナス、為替要因はプラスとなりましたが、特に対円でブラジル・リアルが大きく上昇したことが、基準価額上昇の主なプラス要因となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外債券型(GW)

運用方針

日本を除く世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 設定来 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 海外債券型 (GW) | 1.60% | 3.50% | 0.68% | 9.95% | ▲2.20% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 3.1% |
| 投資信託 | 96.9% |
| 合計 | 100.0% |

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

【参考】 海外債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ピムコ・海外債券ファンド(適格機関投資家専用)

(運用会社:ピムコジャパン リミテッド)

<基準価額の騰落率>

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 設定来 |
|-----------------|-------|-------|--------|--------|--------|
| ピムコ 海外債券ファンド | 1.75% | 3.93% | 1.32% | 11.66% | 33.35% |
| ベンチマーク | 0.80% | 2.54% | ▲1.50% | 1.53% | 27.33% |
| 差異 | 0.95% | 1.39% | 2.82% | 10.14% | 6.02% |

※ベンチマークは、シティグループ世界国債インデックス(除く日本、為替ヘッジなし)90%、1ヶ月日本円Libor10%を合成したものです。

<ファンドの一般特性>

| | |
|-----------|--------|
| 平均クーポン | 3.49% |
| 平均直接利回り | 3.31% |
| 平均最終利回り | 3.50% |
| 平均デュレーション | 5.69年 |
| 平均償還期間 | 7.76年 |
| 平均格付け | AAA |
| 債券組入比率 | 99.72% |

<国別構成比>

| 国名 | 組入比率 |
|---------|---------|
| アメリカ | 29.38% |
| ユーロ圏 | 52.98% |
| イギリス | 6.17% |
| カナダ | 7.91% |
| スウェーデン | 0.00% |
| ポーランド | 0.00% |
| オーストラリア | 3.48% |
| 日本 | 0.09% |
| 合計 | 100.00% |

<格付構成比>

| 格付 | 組入比率 |
|-------|---------|
| AAA | 80.98% |
| AA | 4.35% |
| A | 3.84% |
| BBB | 2.17% |
| BB以下 | 0.04% |
| A1/P1 | 8.19% |
| A2/P2 | 0.44% |
| 合計 | 100.00% |

<種別別配分>

| セクター名 | 組入比率 |
|-----------------|---------|
| 国債、エージェンシー債 | 80.50% |
| モーゲージ債、アセットバック債 | 2.05% |
| 社債 | 17.17% |
| キャッシュ等* | 0.28% |
| 合計 | 100.00% |

※「キャッシュ等」にはCP等も含まれます。

<運用コメント>

<市場コメント>

米国債券市場では、月初に雇用統計などの経済指標が良好な結果となったことから景気回復期待が高まり、軟調にスタートしました。しかしその後、米証券取引委員会(SEC)による米大手金融機関の提訴やギリシャに対する財政懸念の高まりから投資家のリスク許容度が低下すると上昇基調へ転じ月末を迎えました。(2年債利回りは前月比0.06%、10年債利回りは前月比0.17%それぞれ低下しました。)

欧州債券市場では、月前半は欧州連合(EU)と国際通貨基金(IMF)によるギリシャ支援策が決定するとの見通しから、軟調に推移しました。しかし月後半には、支援策の実施が遅れるとの見方が広がったほか、格付け機関が相次いでギリシャの格付けを引き下げると、ギリシャに対する財政懸念が再燃し、「質への逃避」から堅調な展開となりました。(2年債利回りは前月比0.19%、10年債利回りは前月比0.08%低下しました。)英国債券市場は、月前半は国債入札が軟調な結果となったことや物価上昇率が事前予想を上回ったことがマイナス材料となり下落する場面も見られましたが、月末にかけてギリシャに対する財政懸念が高まると上昇へ転じ月を終えました。(2年債利回りは前月比0.03%、10年債利回りは前月比0.09%低下しました。)

日本債券市場は月初、日銀短観において幅広い業種で景況感の改善が見られたことを受けて弱含む場面も見られましたが、その後実施された国債入札で底堅い需要が確認されたため上昇に転じました。月末にかけては、ギリシャの財政状況に対する懸念が高まると、「質への逃避」から日本債券市場は上昇基調を辿り、当月を終了しました。(2年債利回りは前月比0.01%、10年債利回りは前月比0.11%それぞれ低下しました。)

<パフォーマンス>

先月のパフォーマンスはプラス1.75%となり、ベンチマークを0.95%上回りました。国債に比べパフォーマンスが冴えなかったモーゲージ債の保有はマイナスとなったものの、欧州を中心にデュレーションをオーバーウェイトとした戦略や国債よりもパフォーマンスが良好であった社債の選択的保有がプラスとなりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本債券型(GW)

運用方針

国内の物価連動債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

| | 1カ月 | 3カ月 | 6カ月 | 1年 | 設定来 |
|---------------|-------|--------|-------|-------|--------|
| 日本債券型 (GW) | 1.05% | ▲0.02% | 3.49% | 7.52% | ▲2.24% |

特別勘定資産内訳

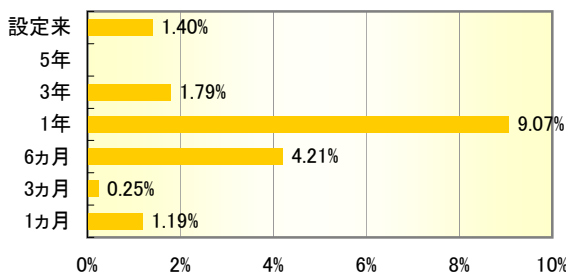
| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 2.8% |
| 投資信託 | 97.2% |
| 合計 | 100.0% |

【参考】日本債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

MHAM物価連動国債ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:みずほ投信投資顧問株式会社)

<期間別騰落率> 累積収益率



※累積収益率は、ファンドの決算時に収益分配があった場合にその分配金(課税前)を再投資したものと算出。
※累積収益率は実際の投資家利回りとは異なります。

<組入上位5銘柄の組入比率>

| | 銘柄名 | 利率 | 償還日 | 比率 |
|---|--------------------|--------|------------|-------|
| 1 | 第4回利付国債(物価連動・10年) | 0.500% | 2015/06/10 | 29.7% |
| 2 | 第12回利付国債(物価連動・10年) | 1.200% | 2017/06/10 | 29.1% |
| 3 | 第2回利付国債(物価連動・10年) | 1.100% | 2014/06/10 | 15.2% |
| 4 | 第3回利付国債(物価連動・10年) | 0.500% | 2014/12/10 | 12.0% |
| 5 | 第1回利付国債(物価連動・10年) | 1.200% | 2014/03/10 | 7.4% |

<ポートフォリオの状況>

| | |
|------------|-------|
| 国内債現物組入銘柄数 | 7銘柄 |
| 公社債の平均残存期間 | 5.53年 |

※組入比率は純資産総額に対する比率を表示しています。

| | |
|-------|-------|
| 国内債現物 | 99.8% |
| 国内債先物 | 0.0% |
| その他資産 | 0.2% |

※その他資産は、100%から国内債現物・国内債先物の組入比率の合計を差し引いたものです。

<公社債の残存期間別組入比率>

| 残存年数 | 比率 |
|----------|-------|
| 1年未満 | 0.0% |
| 1年～3年未満 | 0.0% |
| 3年～7年未満 | 66.1% |
| 7年～10年未満 | 33.7% |
| 10年以上 | 0.0% |

※組入上位5銘柄の組入比率、公社債の残存期間別組入比率は純資産総額に対する比率を表示しています。

<運用コメント>

■先月の投資環境

第1回物価連動国債利回りは、4月末現在で1.123%と前月末比0.32%低下しました。

第1回物価連動国債とほぼ同じ期間の10年長期国債(第258回債)との複利利回り格差(物価連動国債が償還までどれだけの物価上昇(年率)を織込んでいるかを示す値=ブレークイーブンインフレ率)は、月初マイナス1.0%台前半で始まり、月を通じて緩やかにマイナス幅が縮小し、マイナス0.8%程度で月末を迎えました。この結果、ブレークイーブンインフレ率のマイナス幅は前月末比で縮小しております。

第1回物価連動国債とほぼ同じ期間の10年長期国債利回りが低下(10年長期国債(第258回債)複利利回りで0.1%の利回り低下)したことに加え、ブレークイーブンインフレ率のマイナス幅が縮小したことから、第1回物価連動国債の利回りは低下しました。同様に第2回～第16回の物価連動国債の利回りにつきましても低下しました。

また、全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数。以下コアCPIという。)から算出する物価連動国債の4月末の連動係数は、3月末比0.2%程度低下しました。

■先月の運用概況

物価連動国債を高位に組入れているポートフォリオを維持しました。

組入れた公社債の平均残存期間は5.53年としております。

かかる運用の結果、物価連動国債の連動係数が低下したことがマイナスに影響したものの、マザーファンドで保有している物価連動国債とほぼ同じ期間の10年長期国債利回りが低下したことや、ブレークイーブンインフレ率のマイナス幅が縮小したことがプラスに寄与し、当ファンドの4月末の基準価額は9,997円と前月末比118円の上昇となりました。

■今後の運用方針

物価連動国債が参照する物価指数であるコアCPIの足元の状況については、2010年4月末に発表された3月分のコアCPIの値が前年同月比マイナス1.2%と引続き大幅なマイナス水準にあります。しかしながら、4月末に発表された日銀の展望レポートの物価の見直しにもありますように、中長期的にはコアCPIがプラスに転じることが展望できるようになるものと見込みます。物価連動国債市場を取り巻く環境につきましては、足元では物価低下圧力等の影響を受けているものの、引続き財務省による買入消却等の需給面のサポートもあることから、もみ合いながら推移しております。今後につきましては、引続きブレークイーブンインフレ率の動向を注視すると共に、需給動向及び期待インフレ率、コアCPIの変化に備えたポートフォリオを維持していく方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外リート型 (GW)

運用方針

日本を除く世界各国の上場不動産投信 (REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み、円換算ベース)に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 設定来 |
|-------------|-------|--------|--------|--------|---------|
| 海外リート型 (GW) | 6.12% | 21.03% | 22.21% | 55.90% | ▲40.49% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比 (%) |
|---------|---------|
| 現預金・その他 | 2.8% |
| 投資信託 | 97.2% |
| 合計 | 100.0% |

【参考】 海外リート(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ノムラ海外REIT インデックス・ファンドVA (適格機関投資家専用)

(運用会社:野村アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 設定来 |
|-----------------------|------|-------|-------|-------|--------|
| ノムラ海外REITインデックスファンドVA | 6.5% | 22.1% | 23.7% | 59.9% | ▲33.6% |
| ベンチマーク | 6.6% | 22.2% | 24.3% | 62.1% | ▲31.5% |

「S&P先進国REIT指数(除く日本)」はスタンダード&プアーズファイナンシャル・サービスズエルエルシーの所有する登録商標であり、野村アセットマネジメントに対して利用許諾が与えられています。スタンダード&プアーズは本商品を推奨・支持・販売・促進等するものではなく、また本商品に対する投資適格性等に関しかなる意思表示等を行なうものではありません。

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

※ベンチマークである、S&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み、円換算ベース) はS&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み、ドルベース) を委託会社において円換算したものです。

<資産配分比率>

| 資産種別 | 純資産比 |
|-----------|--------|
| REIT(リート) | 99.5% |
| その他の資産 | 0.5% |
| 合計(※) | 100.0% |

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示しておりません。
 ※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

<実質通貨別配分>

| 通貨 | 純資産比 |
|----------|-------|
| 日本・円 | 0.1% |
| 外貨計 | 99.9% |
| アメリカ・ドル | 61.7% |
| ユーロ | 10.0% |
| イギリス・ポンド | 6.8% |
| その他の外貨 | 21.5% |

・実質通貨配分は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。

<国・地域別配分>

| 国・地域 | 純資産比 |
|----------|--------|
| アメリカ | 61.6% |
| オーストラリア | 13.9% |
| フランス | 6.8% |
| イギリス | 6.8% |
| シンガポール | 3.1% |
| その他の国・地域 | 7.7% |
| 合計 | 100.0% |

<REIT 組入上位10銘柄>

| 順位 | 銘柄 | 国・地域 | 純資産比 |
|----|---------------------------|---------|------|
| 1 | SIMON PROPERTY GROUP INC | アメリカ | 5.9% |
| 2 | WESTFIELD GROUP | オーストラリア | 5.4% |
| 3 | UNIBAIL RODAMCO SE | フランス | 3.8% |
| 4 | VORNADO REALTY TRUST | アメリカ | 3.0% |
| 5 | PUBLIC STORAGE | アメリカ | 3.0% |
| 6 | EQUITY RESIDENTIAL | アメリカ | 2.9% |
| 7 | BOSTON PROPERTIES | アメリカ | 2.5% |
| 8 | HOST HOTELS & RESORTS INC | アメリカ | 2.4% |
| 9 | HCP INC | アメリカ | 2.1% |
| 10 | STOCKLAND TRUST GROUP | オーストラリア | 1.9% |

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

※国・地域名は発行国・地域で区分しております。

<市場コメント>

●米国の住宅関連指標の改善や株式市場の上昇などを受けて、外国リート市場は米国を中心に上昇しました。

(野村アセットマネジメント作成)

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載しておりますので必ずご参照ください。

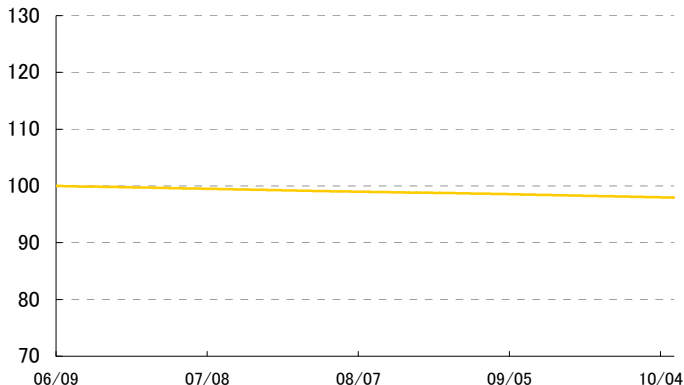
特別勘定名称

マネープール型(GW)

運用方針

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 設定来 |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| マネープール型 (GW) | ▲0.06% | ▲0.16% | ▲0.32% | ▲0.65% | ▲2.06% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 27.4% |
| 投資信託 | 72.6% |
| 合計 | 100.0% |

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(「100」として指数化した)を指します。

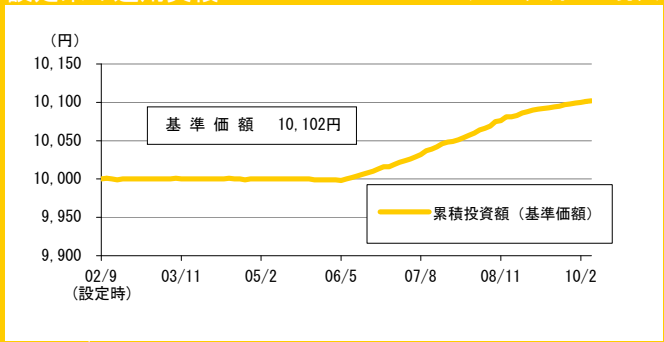
【参考】マネープール型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

設定来の運用実績 (2010年4月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。
ただし、申込手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。
※基準価額は信託報酬控除後のものです。

純資産総額 126.6 億円 (2010年4月30日現在)

商品概要 2010年5月(月次改訂)

| | |
|------|--------------------------|
| 形態 | 追加型投信/国内/債券 |
| 投資対象 | 本邦通貨表示の公社債等 |
| 設定日 | 2002年9月20日 |
| 信託期間 | 原則無期限 |
| 決算日 | 原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日) |

累積リターン (2010年4月30日現在)

| | 直近1ヶ月 | 3ヶ月 | 6ヶ月 | 1年 | 設定来 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ファンド | 0.01% | 0.03% | 0.07% | 0.14% | 1.02% |

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金(税込み)

| | |
|-----------------|----|
| 第4期(2005.11.30) | 0円 |
| 第5期(2006.11.30) | 0円 |
| 第6期(2007.11.30) | 0円 |
| 第7期(2008.12.01) | 0円 |
| 第8期(2009.11.30) | 0円 |

(2010年3月31日現在)

<資産別組入状況>

| | |
|--------|-------|
| 債券 | 95.0% |
| CP | - |
| CD | - |
| 現金・その他 | 5.0% |

<組入資産格付内訳>

| | | |
|--------|---------|-------|
| 長期債券格付 | AAA/Aaa | - |
| | AA/Aa | 95.0% |
| | A | - |
| 短期債券格付 | A-1/P-1 | - |
| | A-2/P-2 | - |
| 現金・その他 | | 5.0% |

| | |
|--------|--------|
| 平均残存日数 | 41.43日 |
| 平均残存年数 | 0.11年 |

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。(「プラス/マイナス」の符号は省略しています。)なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2010年3月31日現在)

| | 銘柄 | 種類 | 格付 | 比率 |
|----|------------------------|----|-------|-------|
| 1 | 第89回 国庫短期証券 2010/05/24 | 債券 | AA/Aa | 22.9% |
| 2 | 第84回 国庫短期証券 2010/04/28 | 債券 | AA/Aa | 15.5% |
| 3 | 第83回 国庫短期証券 2010/04/26 | 債券 | AA/Aa | 12.6% |
| 4 | 第80回 国庫短期証券 2010/04/19 | 債券 | AA/Aa | 10.3% |
| 5 | 第77回 国庫短期証券 2010/04/07 | 債券 | AA/Aa | 8.6% |
| 6 | 第95回 国庫短期証券 2010/06/21 | 債券 | AA/Aa | 8.0% |
| 7 | 第85回 国庫短期証券 2010/05/12 | 債券 | AA/Aa | 5.7% |
| 8 | 第97回 国庫短期証券 2010/06/28 | 債券 | AA/Aa | 5.2% |
| 9 | 第93回 国庫短期証券 2010/06/14 | 債券 | AA/Aa | 4.6% |
| 10 | 第79回 国庫短期証券 2010/04/12 | 債券 | AA/Aa | 2.3% |

(組入銘柄数:10)

上位10銘柄合計 95.0%
(対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

| | |
|---|---|
| 契約初期費 | 一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。 |
| 保険関係費 | 特別勘定の資産総額に対して (年率0.75%+運用実績に応じた費用(※))/365日 を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、運用実績が 年率1.5%を超過 した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。 |
| 移転費 | 積立金の移転が年間13回以上のとき、 移転一回につき1,000円 を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。 |
| 年金管理費 | 年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。 |
| 資産運用関係費 | 日本株インデックス型(GW) 年率0.42%程度 |
| | 日本株アクティブ型(GW) 年率0.924%程度 |
| | 海外株式型(GW) 年率0.399%程度 |
| | 新興成長国株式型(GW) 年率1.155%程度 |
| | 海外債券型(GW) 年率0.9135%程度 |
| | 日本債券型(GW) 年率0.252%~0.3675%程度 |
| | 海外リート型(GW) 年率0.42%程度 |
| マネープール型(GW) 年率0.008925%~0.525%程度 | |

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「グローバル・ウィン」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「グローバル・ウィン」には「特別勘定グループ(GW)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(GW)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(GW)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほか、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)「グローバル・ウィン」は現在販売しておりません。